

発電所だより 2024年9月号

女川2号機の再稼働工程に係る情報をホームページで公開しています。検査や作業の実績・計画は「週報」として掲載しています。



東北電力女川原子力発電所総務部広報グループ
女川町塚浜字前田1 電話0225-53-3111
2024年9月発行

《女川原子力発電所2号機の「燃料装荷」が終了しました》

女川原子力発電所2号機の原子炉に燃料を入れる「燃料装荷」を、9月3日に開始し、9月9日に終了しました。今後、「原子炉起動※1」に向けて原子炉圧力容器※2や原子炉格納容器※3の蓋を閉めるなどの復旧作業を行うとともに、さまざまな検査・試験を進めていきます。引き続き、安全確保を最優先に再稼働に向けて全力で取り組んでまいります。

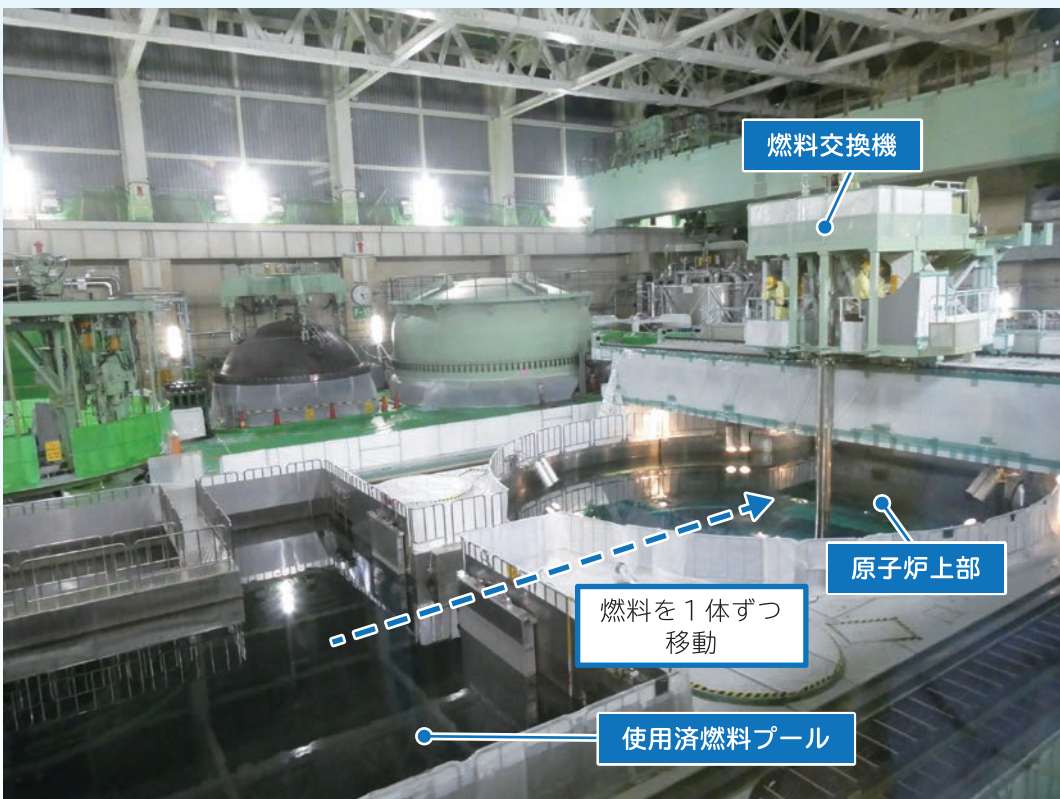
- ※1 原子炉を起動し、核分裂反応が安定して継続することを確認する工程
- ※2 燃料を収納する鋼鉄の容器で、高い圧力に耐える構造
- ※3 原子炉圧力容器やポンプを覆っている寸胴形の容器と圧力抑制室で構成される気密性の高い容器

約13年ぶりの「燃料装荷」～24時間体制で、原子炉に燃料560体を装荷～

燃料装荷は2号機原子炉建屋の使用済燃料プールに保管中の燃料を燃料交換機※4を用いて1体ずつ原子炉に入れる作業で、2011年2月以来約13年ぶりの作業となりました。作業員が24時間体制で設備の健全性や動作などを確認しながら、慎重に作業を進め、燃料560体を所定の位置に装荷しました。

また、9月6日には、燃料装荷作業の様子を報道機関へ公開し、17社20名に参加いただきました。

- ※4 原子炉へ燃料を装荷する時や取り出す時に、燃料を所定の位置に移動させるクレーン式の設備



燃料装荷作業の様子（2号機原子炉建屋オペレーションフロア）



燃料交換機上から燃料の位置などを確認する作業員

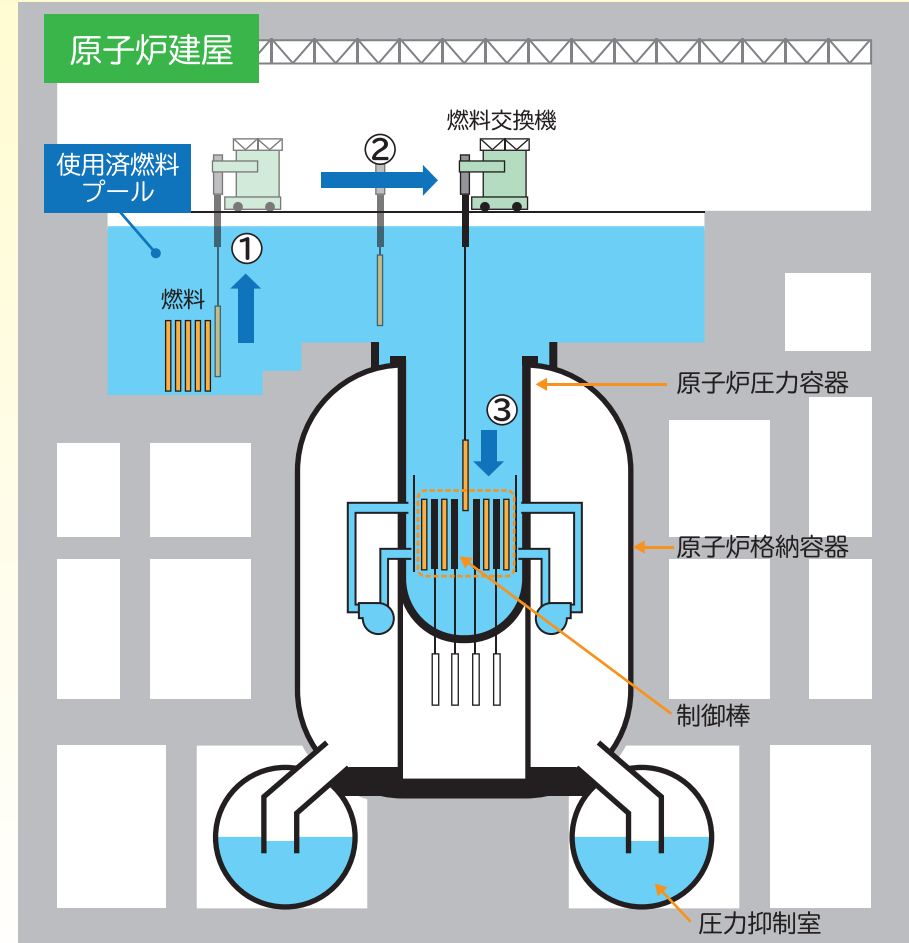


燃料装荷作業について報道機関に説明する様子

燃料装荷の方法

燃料の移動は放射線を遮る水中で実施

- ① 燃料交換機で使用済燃料プール内の燃料を1体ずつ吊り上げます。
- ② 吊り上げた燃料を原子炉圧力容器の上部に移動します。
- ③ 燃料を原子炉圧力容器内の所定の位置に装荷します。



燃料装荷作業のイメージ図

《「大規模損壊訓練」「シーケンス訓練」を実施しました》

女川2号機の「燃料装荷」前に行う実動訓練として、8月8日・15日に「大規模損壊訓練」を、8月20日～22日・29日に「シーケンス訓練」を実施しました。訓練では、大型航空機の衝突による施設の大規模な損壊を想定した対応や、重大事故発生時の対応などを確認しました。今後もさまざまな事象を想定した訓練を繰り返し実施し、緊急時における対応力の維持・向上に努めてまいります。

大規模損壊訓練



消防車や放水車を用いた消火訓練



対策本部での指揮訓練

シーケンス訓練



大容量送水ポンプ車を用いた注水訓練



シミュレータを用いた事故収束に係る対応訓練

《「第23回東北電力図画コンクール」一般投票を行います》 《一次審査を通過した200点の作品からお気に入りの作品に投票をお願いします》

当発電所では、毎年、小学生以下の皆さんを対象とした図画コンクールを開催しています。今回のコンクールに応募いただいた4,195点の作品の中から、一次審査を通過した200点の作品※を女川原子力PRセンターに展示します。

「想像の海の生きものたち」をテーマに、子どもたちが描いた想像力溢れる個性豊かな作品をご覧ください、ぜひお気に入りの作品（最大3作品）に投票をお願いいたします。

なお、入賞作品は投票結果および最終審査を経て、12月頃に決定する予定です。たくさんの皆さまのご来場をお待ちしております。

※一次審査を通過された皆さまには、10月上旬までに各学校・保育園などを通じてお知らせします。



過去の入賞作品の展示の様子

展示期間 9月28日(土)～10月25日(金)〔休館日 10月21日(月)を除く〕



女川原子力PRセンター (〒986-2221 女川町塚浜字前田123)

お問い合わせ

開館時間 9:30～16:30

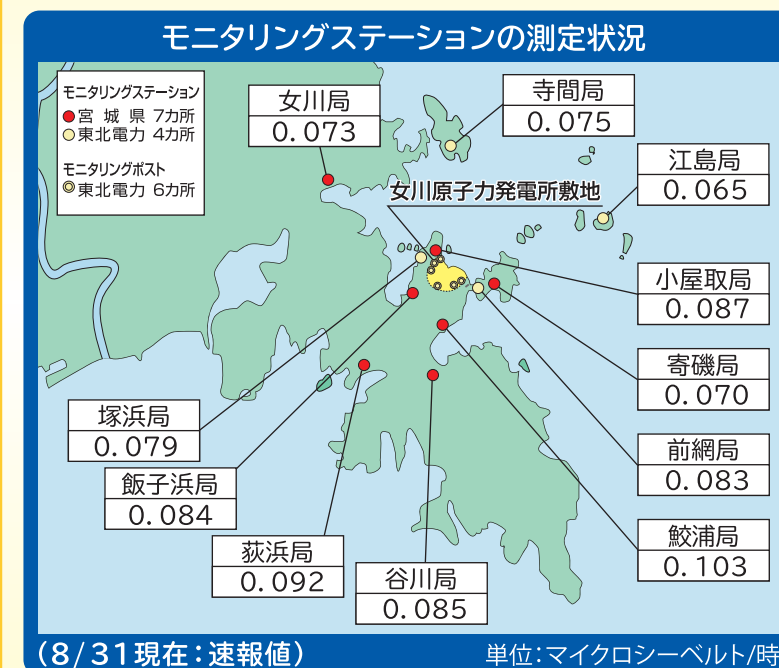
休館日 毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、
年末年始、その他臨時休館あり

電話番号 0225-53-3410

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2024年8月31日の測定値は、最大で0.044マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値※3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
2011年 3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年 3月13日	1.8～21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	
2012年 4月 1日	0.063～0.098
2013年 4月 1日	0.055～0.076
〈 〉	
2022年 4月 1日	0.033～0.045
2023年 4月 1日	0.034～0.046
2024年 8月 1日	0.032～0.043
2024年 8月31日	0.032～0.044

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02～0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。再生紙を利用しています

